



シルバーケア悠悠による眠りSCAN導入の取り組み報告

2026年2月24日（火）

【事業所名】 介護老人保健施設 シルバーケア悠悠

【報告者名】 狩俣 慎太郎

01 事業所概要

02 取組概要・流れ

03 取組結果・成果

04 取組のまとめ

01

事業所概要

01 事業所概要

介護老人保健施設 シルバーケア悠悠

- 医療法人アカシア会
- 沖縄県宮古島市下地字嘉手苅660番地 1
- 平成9年 4月 1日
- 施設入所 (定員 80名 ショートステイを含む)
- 63名 / 平均介護度 (3.4)
- 職員数 / 58名



02

取組概要・流れ

02 取組概要・流れ

活動が一段落したら、次の改善活動に向けた準備を行う

	ステップ	進めるコツ	今回の取組みにおける実施事項・流れ	
P D C A の 準 備	ステップ 1 改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 改善活動をするプロジェクトチームを立ち上げ、プロジェクトリーダーを決める 経営層から施設全体への取組開始のキックオフ宣言をする 外部の研修会を活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 介護テクノロジー導入に向け、チームを作り内容を説明する。 各担当の役割分担を伝える 経営層を含む主任クラスのメンバーに対しキックオフ宣言を行う（11/7） 	9・10月
	ステップ 2 現場の課題を見える化しよう	<ul style="list-style-type: none"> 「課題把握シート」「気づきシート」から課題を抽出する 「因果関係図」「課題分析シート」により課題を構造化する 「業務時間見える化ツール」により業務を定量的に把握する 	<ul style="list-style-type: none"> 現場の情報共有 リスク分析 メーカーへの連絡 	11月
P	ステップ 3 実行計画を立てよう	<ul style="list-style-type: none"> 考えられる取組を出し合い課題解決までの道筋を描き、「改善方針シート」で整理する 「進捗管理シート」において成果を測定する指標を定める 	<ul style="list-style-type: none"> 眠りSCANに適切な利用者の選抜 選抜後、無駄な訪室を減らすため、部屋の配置も考えていく 眠りSCANの配線の確認。実施計画作成 	12月
D	ステップ 4 改善活動に取り組みよう	<ul style="list-style-type: none"> まずはとにかく取組み、試行錯誤を繰り返す 小さな改善事例を作り出す 	<ul style="list-style-type: none"> 使用方法、アラート優先順位の確認 アンケート、各データの収集 改善点の見直し 使用方法、情報共有の仕方、アラートの優先順位、使用者の選抜。リスク 	12月
C	ステップ 5 改善活動を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> 「効果測定ツール」「進捗管理シート」により予め定めた成果指標や観察のポイントを確認する 上手くいった点、いかなかった点を整理する 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトメンバーで最終確認（使用方法、アラートの優先順位、配線の位置、使用者の選抜、リスク） 	1月
A	ステップ 6 実行計画を練り直そう	<ul style="list-style-type: none"> 上手くいった点、いかなかった点について、分析を加える 他の取組も含め、実行計画に修正を加える 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員にむけ、眠りSCAN開始の説明を行い本格的な実践にむかう 	2月

03

取組結果・成果

【手順1】改善活動の準備をしよう

プロジェクトチームの発足

職種・役職	プロジェクト上の役割
介護課長	プロジェクトリーダー
事務長補佐	事務担当
介護職員	調査担当
看護	マニュアル担当
理学療法士	リスク検討担当
介護・ケアマネ	技術担当
栄養士・介護	研修検討担当
事務長補佐	運用ルール担当

プロジェクトメンバー選出のポイント

- 各部署からメンバーを選出（幅広い意見徴収が目的）
- IT関係に強いメンバーを多数選出

頑張ったこと・苦労したこと

だれが、どの担当が適正か、また介護職のみならず全職種から選抜する事によってチーム意識を高めた。

【手順1】改善活動の準備をしよう

プロジェクトミーティング

- **開催頻度**
月1回の不定期開催
問題に対して当日出勤者で話し合いを行う
- **開催場所**
1階会議室

キックオフ宣言

- 施設長、各部署のリーダーが集まる会議で事務長補佐がキックオフ宣言



頑張ったこと

一度にメンバーが集まる事がなかなか難しかった為、何日かにわけて個人に活動内容伝えたり、チーム編成の見直しなどを行った。

【手順2】現場の課題を見える化しよう

課題解決の道筋

深堀原因 施設が広く歩く距離が長い、ムダな訪室が多い、夜勤者に対し

介護テクノロジー
の種類/業務改善

見守機器を導入する事により

好転換された
深堀原因

すぐに訪室が必要か？心配のない状況か？

適切な対応と判断が可能になり、

原因

歩く距離が長い、ムダな訪室が多いという問題

が解消・軽減され

結果

「身体的な負担が多く離職者が多い」がなくなり、

悪影響

人員不足の改善が期待できる。

【手順3】実行計画を立てよう

導入テクノロジー・改善取組

- 導入するテクノロジーの種類
眠りSCAN（睡眠状態の把握）

改善取組	具体的内容
職場環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眠りSCAN導入前に配線位置の確認。 ・ モニター画面の設置場所の整理（不用品の片づけ）。
業務の明確化と役割分担 業務全体の流れの再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眠りSCANを使用する利用者様の部屋替え。 ・ なるべく同室者で使用し、無駄な訪室、巡視しなくてもいいような職員の導線作り。
手順書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眠りSCANのマニュアルをモニター横に設置。 ・ 分かりやす様シンプルに独自マニュアル書も作成する。
記録・報告様式の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日職員が目を通すパソコンに「いつ・だれが・どうした」等の記録、報告を行う。
情報共有の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員がすぐに確認が行える場所に情報を掲示、表示する。
OJTの仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入前にメーカーから使い方についての説明を受ける。 ・ 当日参加出来なかった職員へも情報を共有する。
理念・行動指針の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの職種でも「ムリ・ムラ・ムダ」なく楽しい現場作り。 ・ 今いるスタッフの人数での時間と業務の効率化。

工夫・苦勞したこと

環境整備、利用者様の居室の配置の工夫を行った。

また導入前にプロジェクトメンバーはメーカーから説明を受け、全体へ周知を図った。

【手順3】実行計画を立てよう

設定した成果指標

成果指標を設定する文節	設定した成果指標	成果指標の測定方法	測定期間・時期
施設が広く、歩く距離が長い	勤務別の職員の歩数	万歩計使用	毎日
無駄な訪室、巡視回数が多い	訪室回数、巡視時の時間	訪室カウント・巡視のタイム	毎日
人員不足	離職率	介護職員の増減	半年
身体的負担が多い	業務中のストレス度	アンケート	1ヶ月

工夫したこと

**万歩計は数字として目に見えるので無記名で行った。
 (数が少ないとあまり働いていないように見られてしまう)**

【手順4】改善活動に取り組もう ～テクノロジー導入・業務改善取組の準備～

導入・業務改善取組の準備内容

- メーカー2社への見積もり依頼
- 見守りSCANのデモ実施
- 眠りSCANを既に導入している施設への見学を実施
- 機器導入前のKPI測定



頑張ったこと・気づき

メーカーに実演依頼し、使用方法や記録の見方、困ったときの対応の仕方について話し合った。他の施設へ見学に行き活用方法、配線の注意点、ルール作り、全体への周知方法を学んだ。

【手順4】改善活動に取り組もう ～テクノロジーの活用に向けた準備内容の詳細～

手順書・マニュアルの作成

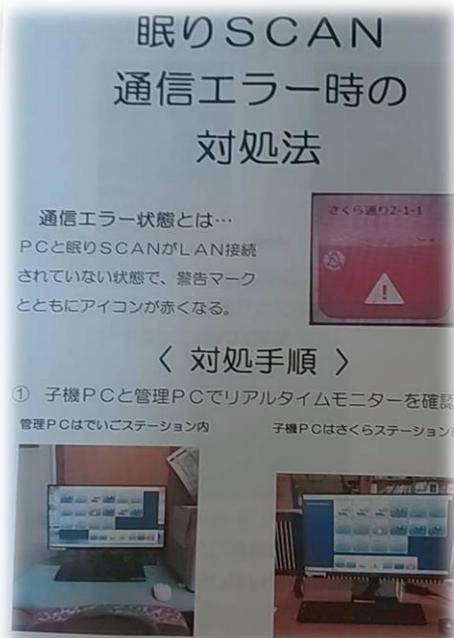
作成までの過程

テキストを見たりメーカーさんから説明を受け、誰が見てもわかりやすく文章化せずに図や写真にすることで、わかりやすいよう独自で作成した。

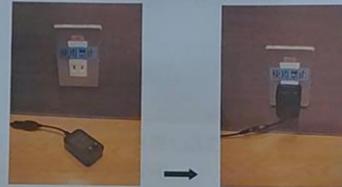
気づいたこと

眠りSCANを導入している施設を訪問した際、眠りSCANの表示データの心拍数上昇や呼吸数の変動の見方や判断に戸惑ったとお話されていたので、「眠りSCAN活用テキスト」の購入の必要性を感じた。

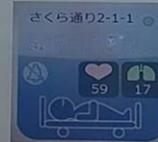
手順書・マニュアルの作成



2) エラーが出ている眠りSCAN本体の設置場所で確認。
 1) コンセントが抜けている場合。



- ① コンセントを差し直す。
- ② 子機PCと管理PCで復旧したか確認。正常アイコンに戻れば確認完了。



- ③ 復旧しない場合(赤アイコンのまま)は、管理PCと子機PCを再起動する。
- ④ 上記でも復旧しない場合は業者へ連絡し、状況を伝える。

2) コードが本体から抜けている場合。



- ① 本体にコードを差し込む。
- ② 前ページの②③④
- ③ 参照

3) コードが破損している場合。変形や断線。



- ① 予備コードへ交換する。
- ② 前ページ②③参照。
- ③ ①が不可能、または施設で対応できない破損の場合は、業者へ修理依頼をする。

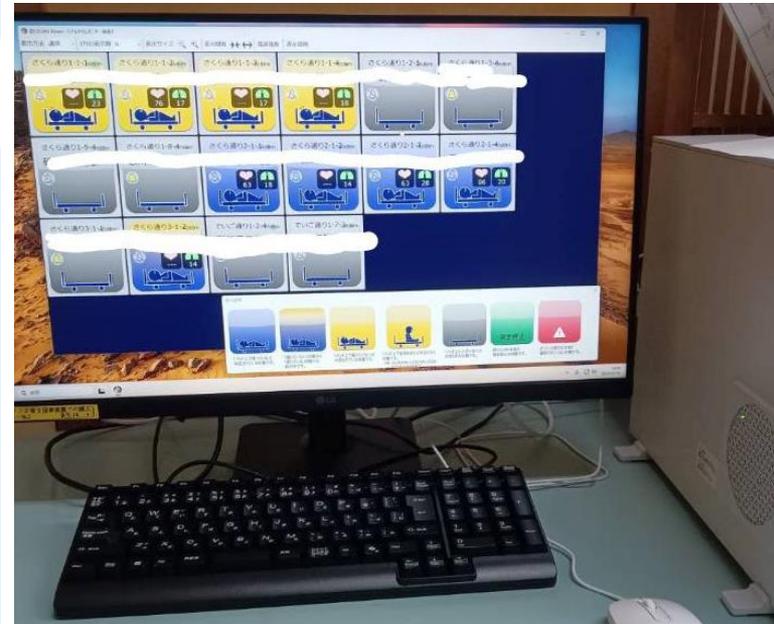
頑張ったこと・気づき

誰が見てもわかりやすく伝えられることができるのか、また故障の際にはどこにどのように連絡すれば良いのかなど誰かに聞かなくてもわかりやすい手順書を作ることがとても大切。

テクノロジーの活用

● 眠りSCAN

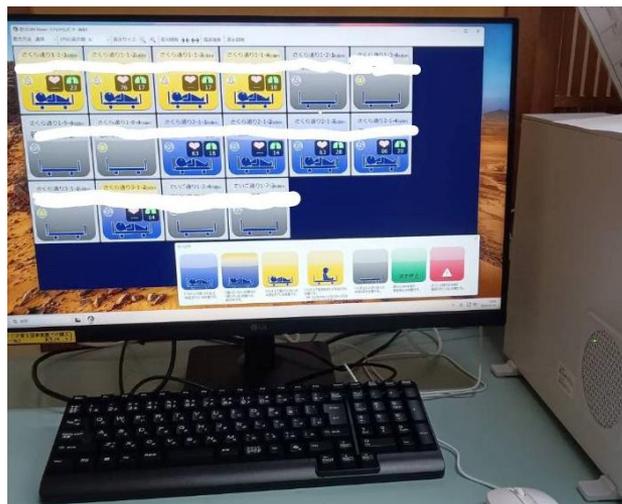
- **機能**
睡眠や呼吸、心拍数の把握が容易になる。
- **活用場面・時間帯**
インフルエンザ等の感染蔓延対策、睡眠状態の把握
- **活用方法**
看取りの方を1人で逝かせない



03 取組結果・成果

【手順4】改善活動に取り組もう ～テクノロジーの活用～

テクノロジーの活用



工夫・気づき

非常災害時に電気が使えないと機能しない。

当施設では停電が発生した際に、たまたま自家発電用コンセントに接続していたため継続機能した。

BCP対策としてとてもいい経験になった。

【手順4】改善活動に取り組もう ～業務改善の取組～

業務改善の取組

- 業務改善の取組内容
備品倉庫の片づけ

- 取組内容の詳細（流れ）

倉庫内の書類や行事道具、扇風機やカーボンヒーター、来客用の大量のスリッパ、ポータブルトイレを一旦全部出し、現在は使用していないディスプレイのホールに仮置きした。今度は必要な物と一旦保留にする物、捨てるものに仕分けを行った。



Before



After



苦労したこと

整理・整頓を始めるにあたり、1番悩んだのが作業の進め方でした。行事で使用する道具や保管期間が過ぎた書類が山積みになっているのを見た瞬間、やる気が一瞬失せそうになりました。「これを終わらせればすっきりした空間が待っている」と自分を叱咤激励し最後まで片づける事ができました。整理整頓の結果を見た時の達成感はや말로できないほどでした。

【手順4】改善活動に取り組もう ～業務改善の取組～

業務改善の取組

● 業務改善の取組内容

カルテがスムーズに取り出せるよう環境整備を行った。

● 取組内容の詳細（流れ）

カルテラックや低い棚に雑然と置かれたカルテを、立ったまま取り出せる棚に移動した。

何台もあったカルテラックを1台程度残し、必要時に使うようにした。カルテラックの置き場所に余裕の空間ができた。



苦勞したこと

整理整頓を始めるにあたり、まず悩んだのが作業の進め方でした。ただでさえ狭いナースステーションにカルテを乗せるカルテラックが場所を占領している状態でした。カルテを仕分ける際、みんなでアイデアを出しながら進めると、意外と盛り上がりました。頑張った甲斐あって、最終的にはカルテ置き場がすっきりと整理されました。今まで探すのにしやがみながら探していたカルテも、立った状態で楽に探す事が出来る様になりました。

【手順4】改善活動に取り組もう ～小さな改善事例の共有～

改善点

● 課題①

訪室回数や歩行数の記録モレがあった。

● 対応①

筆記用具をステーション内に準備し記録できるようにした。

● 課題②

職員ごとに解釈の違いがあり、日をまたいでの記録や、名前の記入を勝手に行う職員がいた。

● 対応②

口頭で一人一人に記入方法を説明した。

【手順5】改善活動を振り返ろう

設定した成果指標①

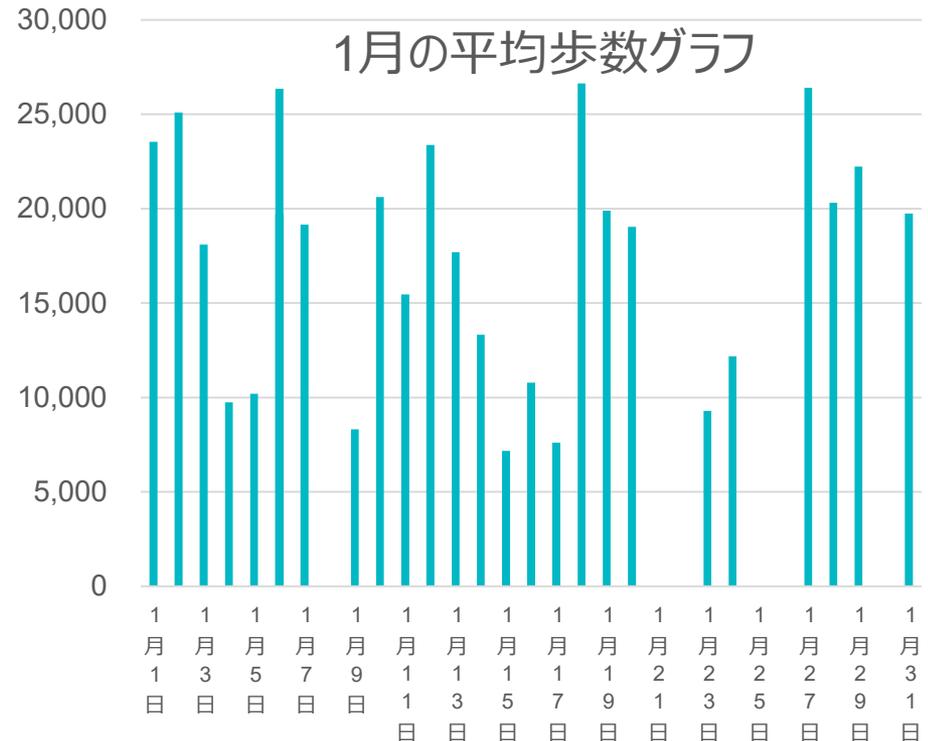
設定した 成果指標①	成果指標の 測定方法	測定期間・時期
夜勤職員の歩数 (ナースコール、 センサーコール、 巡視も含む。)	万歩計使用し 測定	11月後半～現在 時間 17:30～7:30 (出勤時間から退勤 時間まで測定)
目標値		
施設内が広い為おおよそ7000歩～9000歩と思われ、 多くても10000歩だと思われる。		
目標値 8000歩 とする。		



【手順5】改善活動を振り返ろう

設定した成果指標の結果①

実績値	検証と考察 (課題)
<p>1月の平均歩数 13,972歩となりました。</p>	<p>目標値としていた歩数と実績値大きく異なっていた。</p> <p>センサーコールが鳴ってはいるが行かなくても良いこともあり、無駄な訪室などがあった。 (体動でセンサーが作動していた)</p>



【手順5】改善活動を振り返ろう

設定した成果指標②

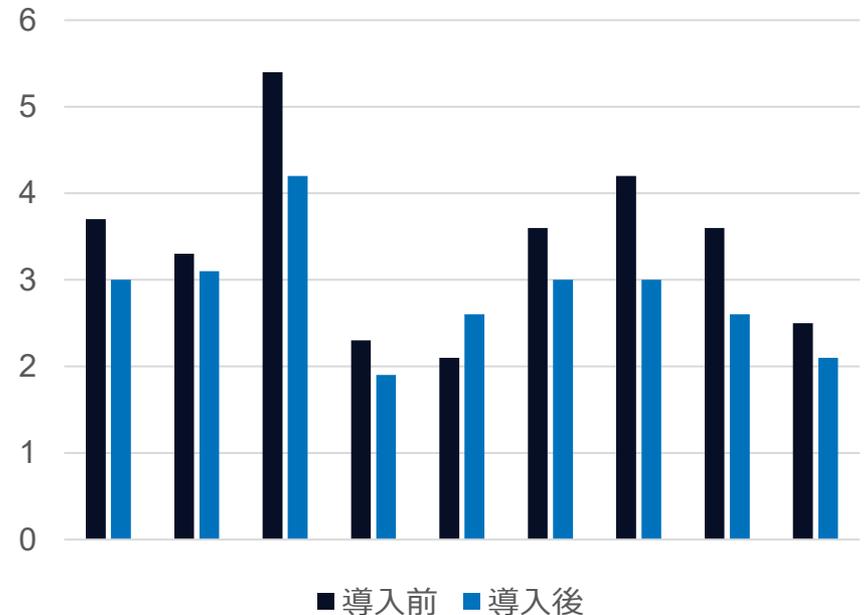
設定した 成果指標②	成果指標の 測定方法	測定期間・時期
<p>訪室回数</p> <p>※夜勤者を対象に行う。 ※ナースコール、センサーコール、 巡視も含む</p>	<p>記録表を作成し訪室した際に正の字でカウントを行う。</p> <p>※全居室入口に記録用紙を貼り訪室時にチェックを入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 1月7日～1月22日 • 1月23日～2月5日 <p>※計測時間17:30～7:30</p>
目標値		
<p>1時間に一回の巡視や排泄介助、センサーコールがある為1日10回以上の訪室があると思われる。</p> <p>目標値 8回とする</p>		

【手順5】改善活動を振り返ろう

設定した成果指標の結果②

実績値	検証と考察（課題）
<p>【導入前】 1日平均3.4回訪室</p>	<p>【導入前】 各居室前に訪室記録用紙を準備していたが、ペンを準備しておらず、記録の抜けが多く見られていた為、目標値とは少なく実績値は3.4回となった。 要因としては排泄介助を行いながらの巡視や排泄介助に時間がかかりこまめな巡視に行けてない。</p>
<p>【導入後】 1日平均2.8回訪室</p>	<p>【導入後】 眠りスキャン導入後2.8回となった。 考察：無駄な訪室を減らすことで睡眠の質が上がったと思われる。</p>

眠りscan導入前後2週間の平均
訪室回数



【手順6】実行計画を練り直そう

実行計画の練り直し

【手順5で検討した、目標と実績に差異がある要因(課題) ①】

センサーコールの発報に対し、訪室不要な場合も、訪室してしまっていることが要因だと思われる。(例：寝返り等の体動でセンサーコール発報している場合)

【課題①に対する解決策】

眠りスキャンで入眠状態を確認し訪室すべきかどうか判断する。

【計画書の見直し内容】

眠りスキャンを設置する利用者さんの見直しを行う。

【解決策を検討する上で苦労した点や工夫した点・見直し内容を実行した際の成果】

看護、介護の両方の視点から眠りスキャンに最適な利用者さんを再選抜。
入眠状態の確認をすることによって無駄な訪室が減り、負担軽減となった。

04

取組のまとめ

職員からのコメント

眠りSCANを導入した後は、データの分析や管理について医師（施設長）と共に勉強しながら進めていきたいと思えます（看護師）

取組のまとめ

● 管理者層（理事長・施設長）からのコメント

2025年問題よりさらに厳しい時代は、2040年になると思います。厳しい時代にどう対応しどのように変化を遂げて行くのかが大きな課題になってくると思います。

介護テクノロジーを導入する際は委員会をしっかりと立ち上げる事が大事です。

何事も整理整頓から始まります。計画・実行・評価・修正を繰り返し行う様にしてください。

取組のまとめ

このプロジェクトを通じて、私たちは職員の成長、組織の方針、そして今後の取り組みについての新たな方向性を見出す事ができました。

導入プロジェクトを始めるにあたって、各部署から選出し、均衡の取れたチームを作りました。各自の強みや経験を考慮しながら決定したメンバーでしたが、プロジェクトの成功への第一歩となる事を理解してか、そのプレッシャーは大きなものでした。

取組のまとめ

初期の不安を和らげるための施設訪問や研修に参加し、知識の共有を促進しましたが、何気ない情報伝達がうまくいかない事も多々あり、チーム内での伝達方法には苦勞しました。

幸いにも、職員はこのプロジェクトに対し前向きな態度で協力してくれました。担当を決めることによって、それぞれが何を担うべきかが明確になり、動きやすさも向上しました。

取組のまとめ

初めての試みであったため「何から始めれば良いのか・・・」という不安を抱える職員も少なくありませんでした。しかし、これを乗り越えるためには、各メンバーが自らの役割を自覚し、前向きに取り組むことが重要でした。

この労働の分散は、チーム全体の負担を軽減し、協力し合う心地良い環境を作り出しました。

このプロジェクトを通じて得た経験や知見を基に、職員の成長と組織の進化を共に目指していきたいと考えています。

～ご清聴ありがとうございました～



医療法人アカシア会
シルバーケア

悠悠